

化学工学特別実験 (Advanced Experiments of Chemical Engineering)		1年・通年・4単位・必修 化学工学専攻・担当 片倉 勝己	
〔準学士課程(本科1-5年) 学習教育目標〕	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-2(70%)、C-1(20%)、D-1(10%)	〔JABEE 基準〕 e、h、f、d-2a、g	
〔講義の目的〕 デザイン能力、チームワーク精神、及び目標達成能力を育成する。			
〔講義の概要〕 グループで実験計画から報告書作成・発表までの一連のプロセスを実行させることにより、チームワークによって限られた制約の中で目標を達成する能力を育成する。			
〔履修上の留意点〕 与えられた実験器具、測定器具、試薬を用いて、実験目的を達成するための実験計画を立てる。実験実施前に、実験計画を指導教員に提出し、特に安全上の問題について討論する。実験結果の解析、整理法は参考資料を調べ、自ら考えること。データ解析、図表作成、参考資料の検索においては積極的にコンピューターを利用し、その技術を習得すること。			
〔到達目標〕 データ解析法、結果の整理法、表現・発表能力を修得すること。報告書作成を通して市販コンピューターソフトの利用技術を習得すること。 プロセス工学実験 テーマ1：P I制御系の特性解析 テーマ2：材料特性実験 テーマ3：粉末オリフィスからの流出速度 有機合成化学実験 テーマ1：Grignard 反応：フェニルマグネシウムブロミドおよび TADDOL の合成 テーマ2：テトラフェニルシクロペンタジエノンの合成：アルドール反応の理解とその反応機構の解明および生成物のスペクトル解析 テーマ3：スピロピランの合成とフォトクロミズムへの応用 電子応用化学実験 テーマ1：分解電圧の測定(二電極法) テーマ2：分解電圧の測定(電極電位法) テーマ3：溶液の導電率測定 テーマ4：可視紫外吸収スペクトル測定			
〔評価方法〕 実験計画、実験態度、報告書(発表)及び口頭試問を行い、その達成度で評価する。実験計画(20%)、実験態度(30%)、報告書(40%)、発表および試問(10%)。			
〔教科書〕 配布プリント(指導教員作成)			
〔補助教材・参考書〕 化学工学便覧、化学便覧、理化学辞典			
〔関連科目〕 プロセス制御、高分子材料学、粉体工学、有機合成化学、有機化学反応論、構造解析学、機器分析 電子応用化学、物理化学、構造解析学			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	グループ編成。実施方法の概略説明。テーマを提示し、実験目的を説明。	
第2週	実験	3グループ編成で、2週間毎に1テーマずつ実験する。	
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週	報告会	各グループで実験結果について報告を行う。その際、他のグループの実験結果も引用し比較検討を行う。報告はパワーポイントなどを用いて口頭発表の形式で行う。	
第9週	総合討論	報告書提出。報告会でなされた報告について総合討論する。	
第10週	ガイダンス	グループ編成。実施方法の概略説明。テーマを提示し、実験目的を説明。	
第11週	実験	3グループ編成で、2週間毎に1テーマずつ実験する。	
第12週			
第13週			
第14週			
第15週			
第16週			
第17週	報告会	各グループで実験結果について報告を行う。その際、他のグループの実験結果も引用し比較検討を行う。報告はパワーポイントなどを用いて口頭発表の形式で行う。	
第18週	総合討論	報告書提出。報告会でなされた報告について総合討論する。	
第19週	ガイダンス	グループ編成。実施方法の概略説明。テーマを提示し、実験目的を説明。	
第20週	実験	4グループ編成で、2週間毎に1テーマずつ実験する。	
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週	報告会	各グループで実験結果について報告を行う。その際、他のグループの実験結果も引用し比較検討を行う。報告はパワーポイントなどを用いて口頭発表の形式で行う。	
第29週	総合討論	報告書提出。報告会でなされた報告について総合討論する。	
第30週	まとめ		

* 4：完全に理解した、 3：ほぼ理解した、 2：やや理解できた、 1：殆ど理解できなかった、 0：全く理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)